

---

# ~ 神のみぞ知るゲーム ~

高橋夢冬

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

「神のみぞ知るゲーム」

### 【Nコード】

N0757S

### 【作者名】

高橋夢冬

### 【あらすじ】

高橋夢冬のデビュー作

## プロローグ

「あれは何だったんだろう」

僕はこの間起きた不思議な出来事の事を考えていた・・・

その日も何も無い普通の日だった。その日の夜、いつも通りの時間に眠りに着いた。

ふと目が覚めると何と、目の前に自分の姿があったのだ！

「こ、これはもしかして幽体離脱っていうやつか？」僕は前、テレビが何かで聞いた、体に戻れないと死んでしまつと言つのを思い出した。

僕は急いで戻ろうとした

「あれ!？」

何と、僕がどうあがこうと体に戻れないのだ。

すると窓の外からすごい光りが入ってきた。

僕は窓を開けた。

：????

ああ、やっと気付いたか。

：主人公

誰だ？

：?????

おい、お前まだ自分の名前も名乗って無いじゃないか。

：ノア

ああ、申し遅れました、主人公の光ノアです。と  
名乗った所であんた誰だ？

：神

ワシか？

ワシは神だ。

：ノア

神!!!?

なんで神がここに居るんだよ！

：神

そりゃあ、お前が死んだからだろ。

：ノア

・・・・・・ はあ!!!?

なんで俺が死んでんの!?

：神

しらねーよ。なんか突然の心臓発作で死んだんだよ、デスオートに  
名前を書かれたんじゃないの？

：ノア

いや、全然納得出来ねーし、ていうか神適当だなあ。

：神  
まあ主人公死んだらどうしようもないからお前に一つチャンスをや  
ろう。  
まあ簡単なゲームみたいなものだ。これにクリアすれば生き返らせ  
てもいいけど？

：ノア  
マジ！？そんなこと出来るのか？

：神  
もちろん！  
だって神だもん、ワシ。

：ノア  
マジかよ！じゃあ早くそのゲーム初めてくれよ！

：神  
よし、じゃあ行っていい！ていつ！！

：ノア  
うああああ〜！！！！

1話へ続く

## 第1話 ゲームスタート

第1話 ゲームスタート

：ノア  
う、うん・・・

僕が目を覚ますと森の中にいた。

：ノア  
ここはどこだ？  
おゝい！神いないのか？

：神  
一応神なんだから呼び捨てにすんなよ！

：ノア  
はいはい、「一応」神様でしたね。  
で、ここはどこなんだ？

：神  
ウゼエ！お前一応チャンスをもらってる側何だぞ？

：ノア  
だ・か・らここはどこなんだよ

：神  
そんなに怒るなよ。

ちなみにここは村の外れの森だよ。今回、お前にはこの国を支配している魔王的なやつを倒してもらおう、まずは村に行くがいい！  
まあせいぜい頑張るがいい。フハハハハ！！！！

：ノア

おい、待て！

・・・しゅん・・・

クソッ！仕方ない、とりあえず村に行くか。

2話へ続く

## 第2話 村を目指して

僕は村に向かって歩いてきた・・・  
すると道の脇から液体でもなく固体とも言い難い透明とも不透明ともいえる不思議な動く物体が現れた。

：ノア

これは、スライム？

ドラ○エのザコキャラとして有名なスライムか？

まあいいか・・・ふん！！

僕は足元に落ちていた木の棒を手に取り、スライムっぽい物体を勢いよく叩いた。

：スライムっぽい物体

プゲエエエエ〜！！！！

：ノア

うわっ！プゲエとかマジでキモっ！！

チャリ〜ン

スライムっぽい物体がいた所から金の音がした

：ノア

スライムが金になった！？

じゃあこつすねば・・・

そうして僕は村に着くまでにスライムっぽい物体を50匹倒してコインを100枚手に入れたのだった。

：ノア

よし！とりあえず村に入るか。

3話へ続く

### 第3話 よつやく村へ…

スライムっぽい物体を倒しながら歩いてきた僕の目の前に突然大きな門が立ちはだかった！

上の方を見ると「村」と書いてあったからきつと村の入口なんだろう。

：ノア

にしてもこの門でかいな……………あれ？

門の横の方を見るとインターホンみたいなボタンが着いていた。

近づいてよく見てみると「押してください」と書いてあったのだ。

僕はそのボタンを押した。

ウイイイイ~~~~ン

ガシャン！

大きな門が横にスライドするように開いた。

：ノア

こんなにでかいのにボタン一つで開くとかこの大きさ無駄だろ。とりあえず村に入るか。

：神

ちよつと待ちなさい！

：ノア  
ああ？！

：神  
な、なんでワシに対してそんなに言葉遣い悪いの？  
まあいい。お前には村の説明を軽くくしてやる。

どこの村にも「店」「教会」「病院」が必ずある。店では薬草などの小物から武器までいろいろなもの売っている。教会ではワシが奉つてある、何か困った時に教会に来てワシを呼べば何かアドバイスをしてやらんでもない。最後に病院だが、健康保険がきくからタダで全回復出来るぞ！

まあそんなとこだ、後は自分で頑張るんだな。  
ハハハハハ！！

：ノア  
勝手に出てきて勝手に消えたな…  
まあとりあえず村に入れば良さそうだな。

僕は村へ入っていった。

第4話へ続く

## 第4話

### 謎の村人

僕は村の中を進んでいた。中はけっこう立派な建物がたくさんあって村と言うよりは街のようだった。道を歩いていると村人と思われる老人が声をかけてきた。

：老人

おい、そのあんた。

：ノア

はい？

：老人

あんたこれから冒険を始める人かい？

：ノア

（冒険？魔王的なやつ倒しに行く事かな？）

ああ、そうだけど、何か用？

：老人

ちよっと渡したい物があるからわしの家に来なさい。

：ノア

(まあ、村でやることまだ無いしいいか)  
分かった。

：老人

よし、着いてきなさい。

僕は老人の家へと向かった。

第5話へ続く

## 第5話

## 老人の家で

僕は老人の家に向かっていた。

：老人

ここだ。小さな家だがゆっくりしてってくれ。

：ノア

お邪魔します。

：老人

何か飲むか？

コーンスープとコーンポタージュがあるけどどっちがいい？

：ノア

（一体何の違いがあるんだよ！）じゃあ…コーンポタージュで…

：老人

はいよ。

ところで本題に入ろう。

簡単に言うと私の武器をお前さんにあげようと思っ。

実は私もあなたと同じで生き返る事を目指して冒険をしていたんだが、失敗してしまっただけ…  
だからあなたにはぜひ、

「C M」を倒してもらいたいんだ。

：ノア

つまり武具くれるんだな？それより「C M」って何だ？

：老人

ああ、言い忘れてた。「C M」とは今この村を支配している魔王的なやつだ。

じゃあ早速だがこれが武具だ、受けとってくれ。

老人は武具を差し出してきた。

：ノア

ありがとうございます。

何も無かったんで助かります。

僕は帰ろうと思って席を立った。

：老人

ちょっと待ちなさい。

：ノア  
！？

：老人

まだ、コンピュータージュが残っているじゃないか！

第6話へ続く

## 第6話

## 冒険の友

僕は老人の家を出て、情報収集も兼ねてひとまず町の中心部へと向かった。

町の中心部の大通りを歩いているとある看板が目にとまった。

：ノア  
魔法塾？

するとその魔法塾という看板のついた建物からどこか見覚えのある人が出てきた。

：ノア  
あれは……

すると向こうも気づいたようでこっちに向かって来た。

：?????

よう！ノアじゃん！こんなところで何してんの？

：ノア

ハリーじゃないか！お前こそなにやってんだよ。

説明しよう

彼はノアの幼なじみでクラスメイトの針井勇一、通称ハリー。ノアの相棒的な存在だ！

：ハリー

なんか気づいたら死んでて神に魔王を倒して来いって言われたんだ

よ。

：ノア

お前もかよ！

つまり目的は一緒か。

なら一緒に魔王退治しねーか？一人より二人の方が心強いしな！

：ハリー

おうよ、相棒！！

こうしてノアとハリーは共に行動することとなった。

第7話へ続く

## 第7話

## 町を出発！

：ノア

なあ、ハリー、ところでなんか建物から出てきたけど何してたんだ？

：ハリー

ああ、魔法塾の事か？

あそこは文字通り魔法の基礎を教えてくれる所さ。お前みたいに武器が無かったから勇者じゃなくて魔法使いでやっていこうと思ってね。

って言うかお前のその武器汚いっていうかボロくね？めっちゃ鉄の部分錆びてるし！

：ノア

うわっ！ホントだっ！！

：ハリー

と、とりあえず武器屋に行って綺麗に直してもらえよ。

：ノア

そ、そうだな。

二人は武器屋へ向かった。

：武器屋の店主

やあ、いらつしやい。

……… 用件はその武器の事かな？

：ノア

そ、そうです…

・武器屋の店主  
料金は全部合わせて50zだけどあるかい？

：ノア  
（あ、あのスライムっぽいやつを倒した時に出てきたやつだな）はい、あります。

・武器屋の店主  
じゃあ30分くらい待ってくれ。

30分後

・武器屋の店主  
ほら、出来たぞ。

：ノア  
あざーす

：ハリー  
じゃあ魔法の書その1も買ったし、ノアの武器も直ったし、行きま  
すか、魔王倒しに！

：ノア  
いつの間に魔法の書買ってたんだよ……まあいいか。よし、行こう  
！！

第8話へ続く



第7話

町を出発！（後書き）

：ハリー

武器直してる間暇だったから買ったんだよ……！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0757s/>

---

～ 神のみぞ知るゲーム ～

2011年10月10日10時05分発行